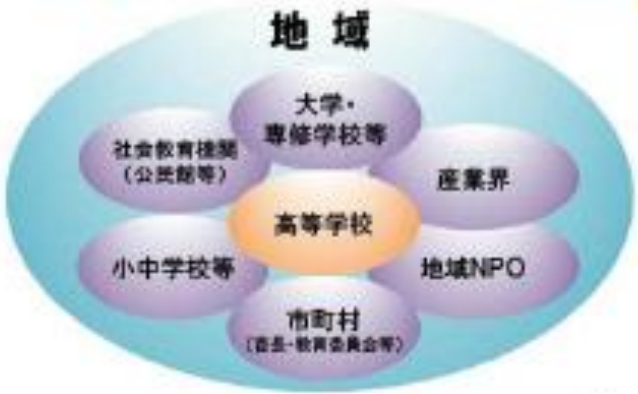
第2回 小諸新校再編実施計画懇話会

「これからの高校教育のあり方」について

令和3年 2月 22日（月） ｵﾝﾗｲﾝ

大正大学 地域創生学部
教授 浦崎 太郎



大正大学

自己紹介

- 浦崎 太郎 （大正大学 地域創生学部 教授）
- 前職は岐阜県の高校教員 （1989.4～2017.3）
  「高校と地域の協働による人づくりと地域づくりの一体的な展開」を指向
- 中央教育審議会 学校地域協働部会 専門委員（2015）
- 大正大学 教授 （2017.4～）
- 総務省 地域力創造アドバイザー （2020.4～）

- 「自分らしく社会に参加できる若者」を育む高校への
  改革支援を通した地域創生を志向し、
  高校と地域の協働に関する
  政策提言から 現場への実務支援まで
  ワンストップで対応。

先日の出張ルート（2月9～17日 8泊9日）

九四フェリーから眺める佐田岬灯台

佐田岬に沈む夕陽

今日のキーワード

互いに越境しあって共学共創し
一緒に未来を創り出していく
コミュニティを小諸市に確立を

（各自が立場を越えてつながる 越境・共に学び共に創る 共学共創＝共助）

“掛け算による価値創造”

Society 3.0 から 4.0 への移行

1980　1990　2000　2010　2020

Society 3.0

工業社会

バブル崩壊

インターネット急速に普及

就職氷河期

学力低下問題

Society 4.0

情報社会

規格品を大量生産することによって個人も組織も国も豊かになれた社会

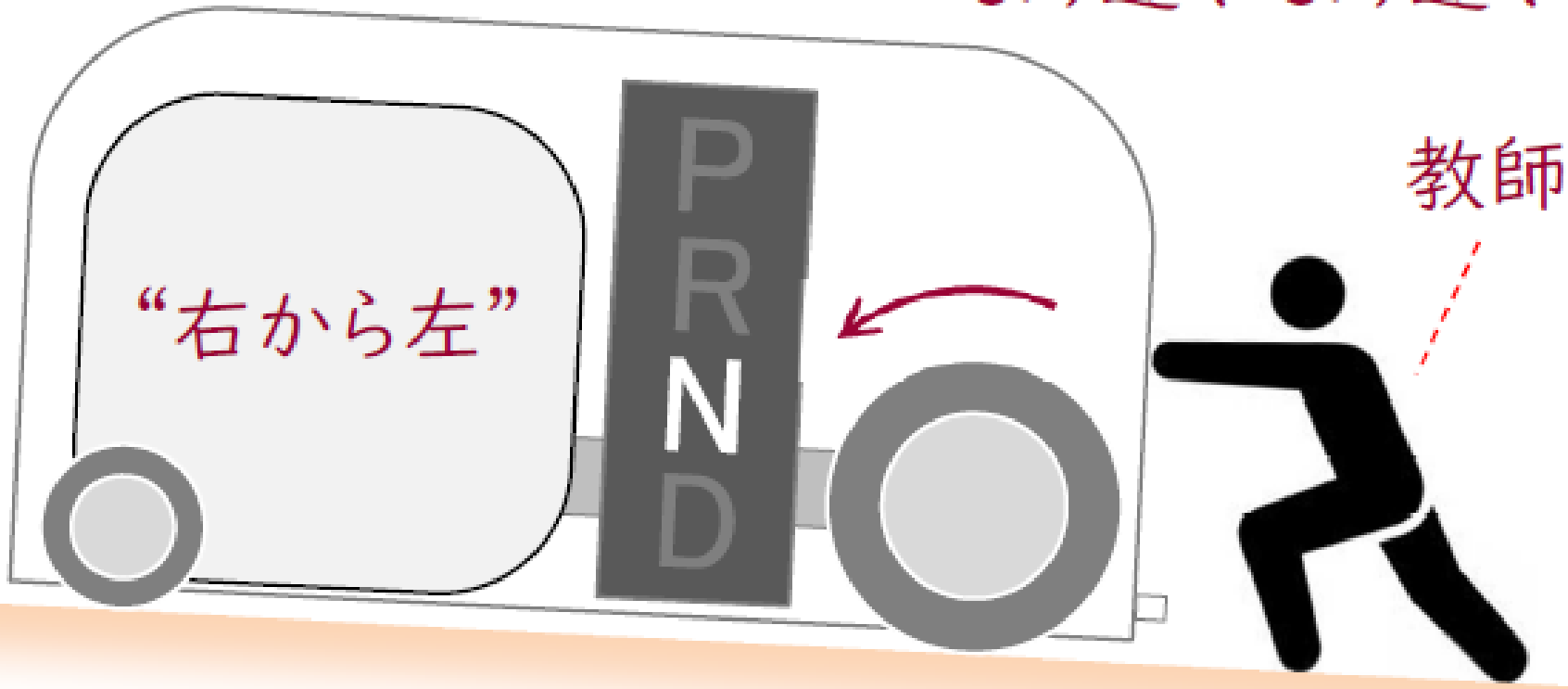
知識の陳腐化が速く環境の変化に応じて新しい価値を創出する必要性が高い社会

日本は成功 → 過去の成功体験を引きずる → 日本は出遅れ

昭和～平成の教育

平成中盤からの“学力向上策”

“より速く・より遠く”

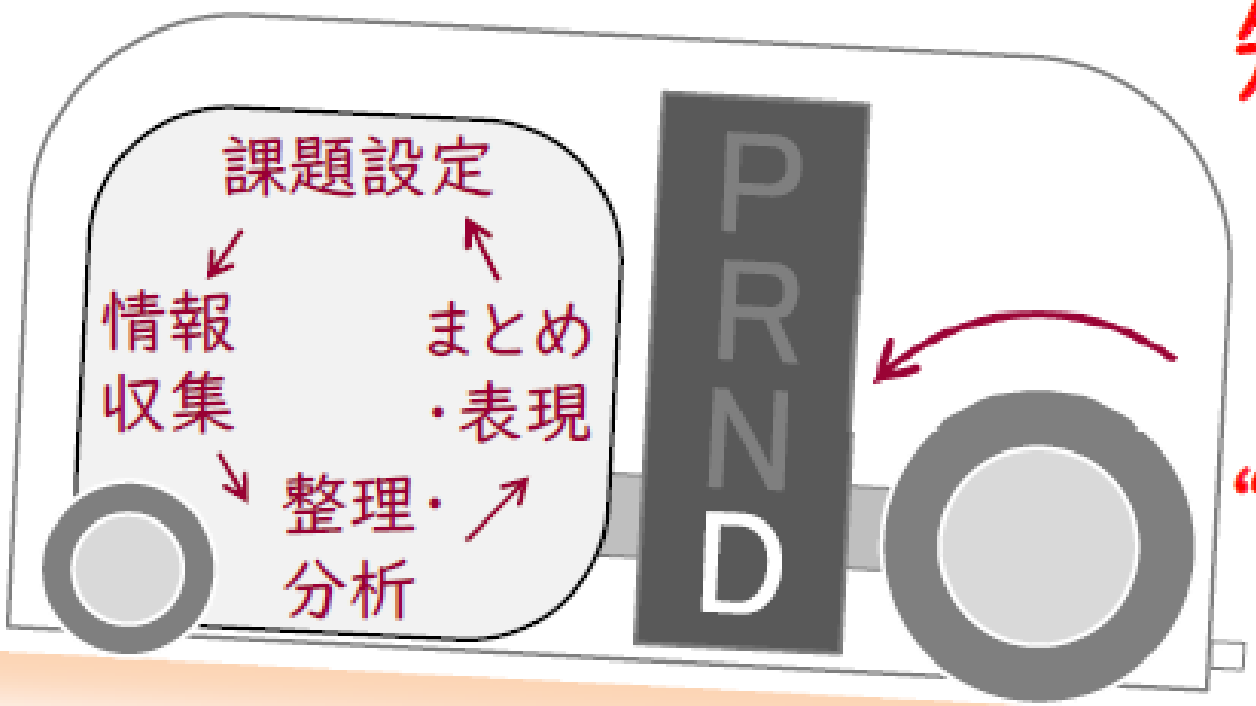


“マズいけど 満腹でも 我慢して食え！”

令和の教育・・自走性

エネルギー源は、生徒一人ひとりの

知的欲求



“知りたい”
“学びたい”
“実現したい”

“飢えてるし 美味いから食べる！”

教育の転換

これまで（Society 3.0）の教育

“足し算による点数アップ”

（学校の中で完結可能）

これから（Society 4.0）の教育

“掛け算による価値創造”

（学びの場を地域に広げる必要性）

指導要領解説「総探編」に頻出する表現

■ 自分軸 と 社会軸 の統合

・・自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を
自ら発見し，解決していく

■ 協働性・社会参画性・創造性

・・単に協力して事に当たるという意味ではなく，
それぞれのよさを生かしながら
個人ではつくりだすことができない価値を生み出す・・

全国高校生
MY PROJECT AWARD 2020
マイプロジェクトアワード

指導要領解説「総探編」に頻出する表現

■ 自分軸 と 社会軸 の統合

‥自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を
自ら発見し，解決していく

■ 協働性・社会参画性・創造性

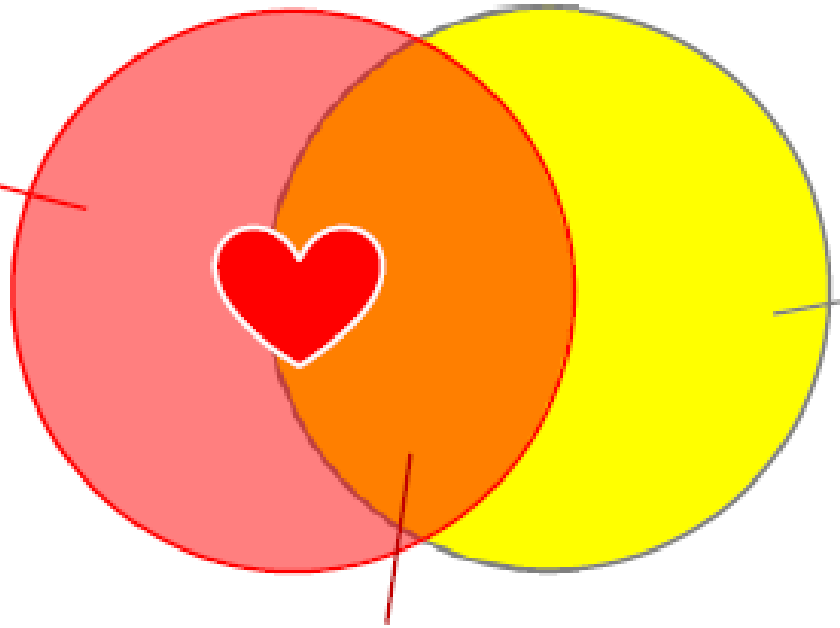
‥単に協力して事に当たるという意味ではなく，
それぞれのよさを生かしながら
個人ではつくりだすことができない価値を生み出す‥

■ 諸科目との有機性

‥総探において，生徒の関心や疑問を大切にし，
それをよりどころとして学習活動を生み出すのは，
その先で価値ある学習を実現するため‥

いま、高校生に必要な学び

マイ・テーマで探究
（自分軸と社会軸の統合）



協働性・社会参画性・創造性

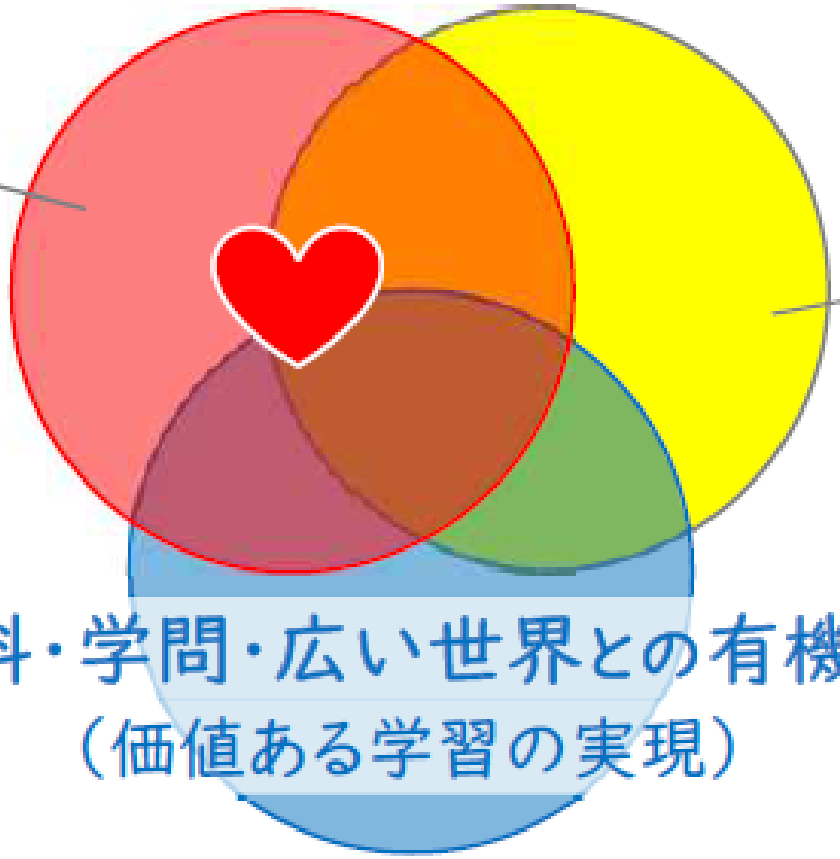
マイ・プロジェクトの価値

“自分らしく社会に参加する”

ただし、高校が教育活動に位置づけるには‥

いま、高校生に必要な学び

マイ・テーマで探究
（自分軸と社会軸の統合）



協働性・社会参画性・創造性

教科・学問・広い世界との有機化
（価値ある学習の実現）

ここが 学校として関わるべき領域

島根・益田高校の石橋直子先生（国語）から ご相談

杉本菜々子さんと サウンドブック をつくれないか？

大正大学地域創生学部 地域実習地に到着（益田班）

R1.10.8.

地域実習（島根県益田市） 久々茂地区 奉納神楽

3年・武田来大君は「石見神楽の音声ガイド」に挑戦

YouYube ×スマホ による音声ガイドを試行

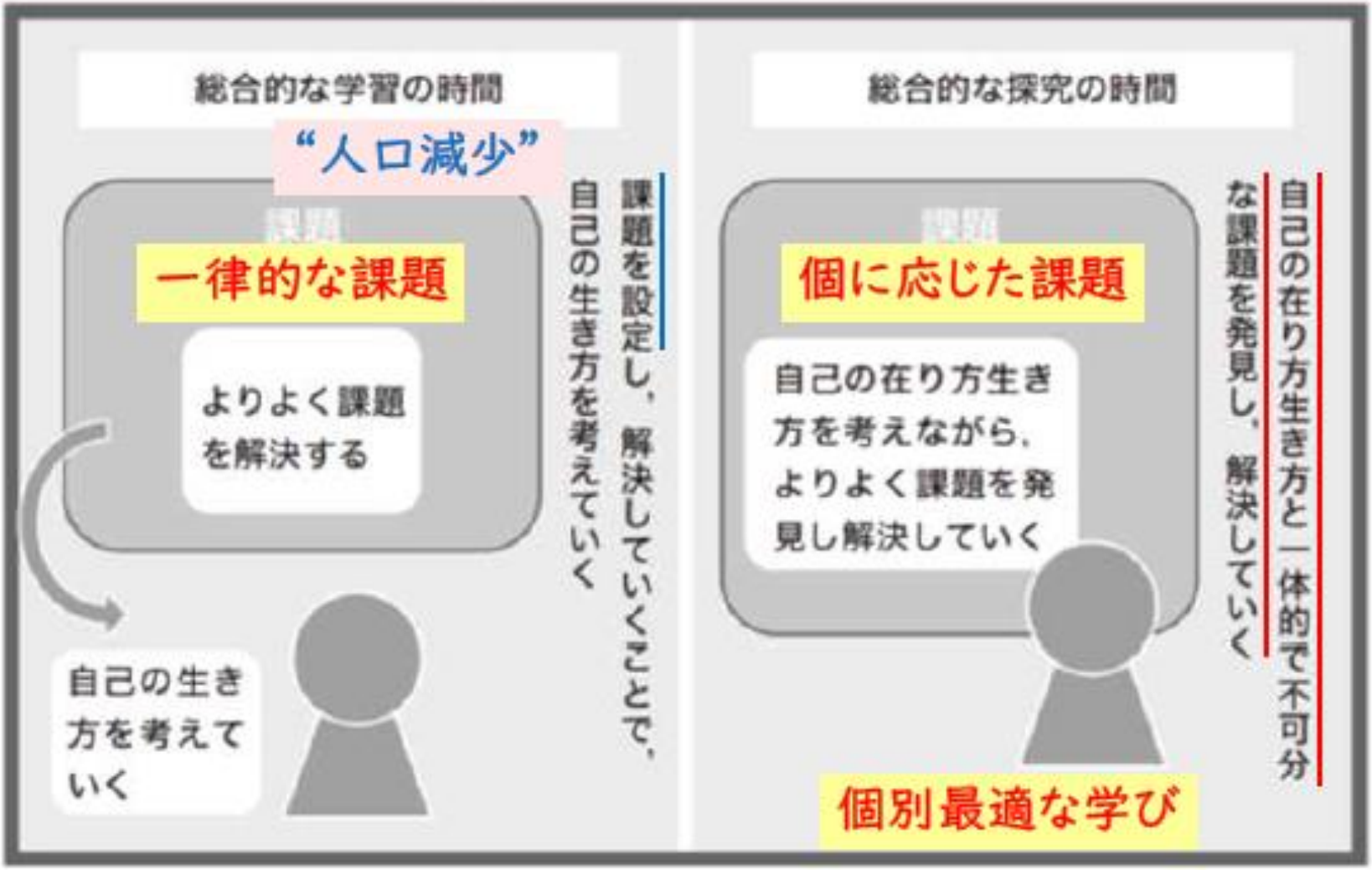
YouYube ×スマホ による音声ガイドを試行

#国語教師
#詩吟
#島根
#アナウンス
#放送部全国入賞
#地域の魅力紹介

“掛け算による価値創造”

「人麿歌集サウンドブック」プロジェクトの先にある未来

現課程（総学）と新課程（総探）の対比



【出典】文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編

総学的な高校 vs 総探的な高校

大人が与える課題 （学校内・外発的）	探究の起点	生徒の関心・気づき （学校内外・内発的）
軽視（やらされ学習化）	マイ・プロジェクト化	重視（丁寧に指導）
低い（教師の都合を優先）	課題の個別最適性	高い（本人の意思を尊重）
グループ単位が基本	活動単位	個人で動くのは普通
低迷（受動的）	学びの自走性	向上・充実（主体的）
授業時間内・校内だけ	探究する機会	放課後・休日も地域等で
生徒を学校に引きつける ために手放せない装置	部活動の位置づけ （教職員の依存度）	探究の充実・浸透とともに 必要性は相対的に低下
結果的に圧迫	受験科目等への影響	探究的・有機的に学習
探究と進路指導で二重負担	進路決定との有機性	探究→総合型選抜で合格
低い（教師は疲労困憊）	働き方改革の実現性	高い（教師は笑顔）

明るい逆参勤交代

「都会の企業人が定期的に地方へ来て過ごす」

「地方と都会の掛け算による新たな価値創造」

高校生に対する意識・態度

■ Society 2.0（農耕社会）

・人は生まれ育った地で生きていくものだ。
・地域の担い手は地元出身者だ。
・進学や就職で外に出すな！
・長老の言うことを聞け！
・今まで通りのやり方に従え！
・勉強させるな！・・ 出たら帰ってこないから
・郷土愛を植え付けろ！
・外に出ても戻って来い！
・言うことを聞く者なら 外来者は歓迎！

高校生に対する意識・態度

■ Society 4.0（情報社会）～

・生きる道は“三人寄れば文殊の知恵”だ。
・自分ならではの才能を存分に伸ばせ！
・最大限に成長&表現できる環境を選べ。
・才能をフルに活かせるところで生きよ。
・専門性を高めて広い世界を渡り歩け！
・地元に戻ることは優先しなくてよい。
・この地で成長&表現したい若者は大歓迎！
・この地にある資源を活かして、
　何かを一緒に創り出していける人物は大歓迎！

地方創生と教育課程（旧課程vs新課程）

■ 旧課程（総合的な学習の時間）

・・（大人が与える）地域課題の解決に取り組ませると地域に対する高校生の当事者意識・能力が向上し、地方創生が実現する。
（統廃合の危機にある他県の高校には 今なお残存）

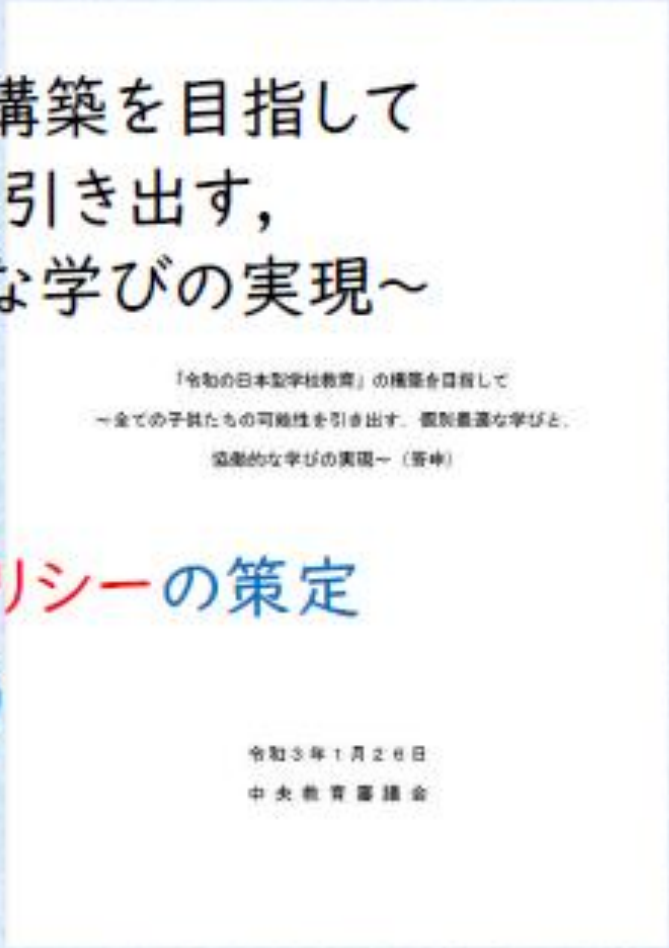
■ 新課程（総合的な探究の時間）

・・生徒一人ひとりが各自の興味関心や気づきに応じて地元で“マイプロジェクト”に取り組むのを支援すると、地元に多彩な才能が開花し、「自分らしく地域に参加する」喜びを実感する若者が増える結果、地元を活躍の場に選ぶ若者も増え、地方創生が実現する。

高校教育改革の最新動向

中央教育審議会 答申　令和3年 1月 26日

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～ 全ての子供たちの可能性を引き出す，
個別最適な学びと，協働的な学びの実現～


「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，
協働的な学びの実現～（答申）

令和３年１月２６日
中央教育審議会

○ スクールミッション・スクールポリシーの策定

○ 普通科改革（大綱化・弾力化）

高校教育改革の最新動向

スクール・ミッション の再定義

各高等学校が育成を目指す資質・能力を明確にするために，
各学校の設置者が，
各学校や所在する 地方公共団体 等の関係者と連携しつつ，
在籍する生徒の状況や意向，期待に加え，
学校の歴史 や伝統 ，現在の社会や地域の実情を踏まえて，
また 20 年後・30 年後の社会像・地域像を見据えて，
各学校の存在意義や各学校に期待されている社会的役割，
目指すべき学校像を 明確化する形で 再定義することが
必要である。

高校教育改革の最新動向

「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化（普通科改革）

現行法令上，
「普通教育を主とする学科」は普通科のみとされているが，
約7割の高校生が通う学科を
「普通科」として一括り に議論するのではなく，
「 普通教育を主とする学科 」を置く各高等学校が
それぞれの特色化・魅力化に取り組むことを 推進する観点から
各学校の 取組を可視化し，情報発信を強化するため
各設置者の判断により，当該学科の
特色・魅力ある教育内容を表現する名称を学科名とすることを
可能とするための制度的な措置が求められる。

新時代の高校像 と スクール・ミッション

中央教育審議会 答申 （令和3年1月26日）
「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～ 全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～

VUCA対応

● スクール・ミッションや普通科改革が打ち出された文脈

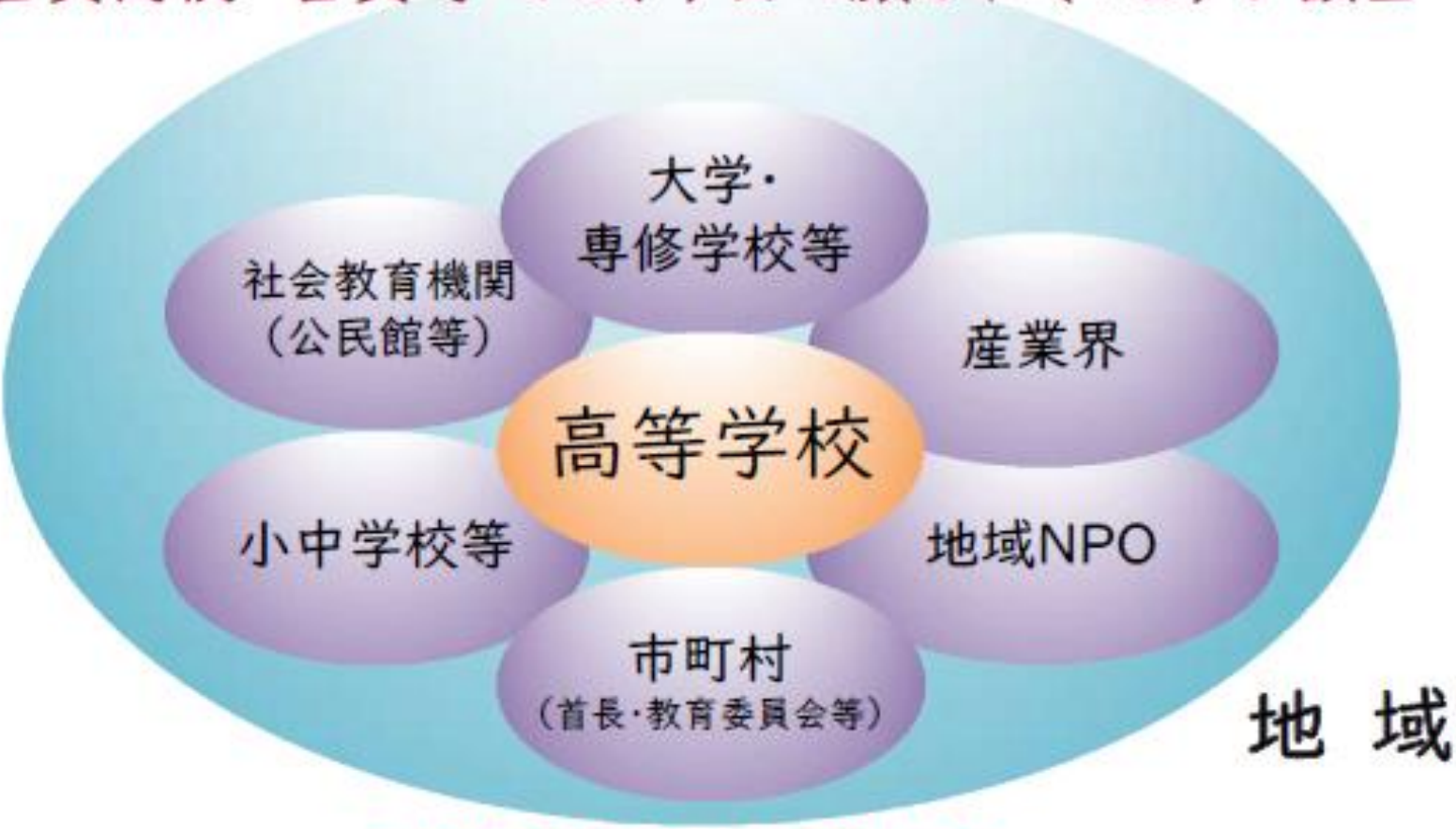
高校が“生徒に縁のある地域の多様な人々”とともに

- 20～30年後、どんな世の中になるのか？
- 地域をどうしていけばよいのか？
- どんな次世代を育てていけばよいのか？
- どのように役割を果たしあっていけばよいのか？

を探究した上で、自校が社会の未来に果たすべき使命を明確化し、各校が使命の達成に必要な教育課程を柔軟に編成できるよう、弾力化した方がよいのではないか？

スクールミッションを再定義するための母体

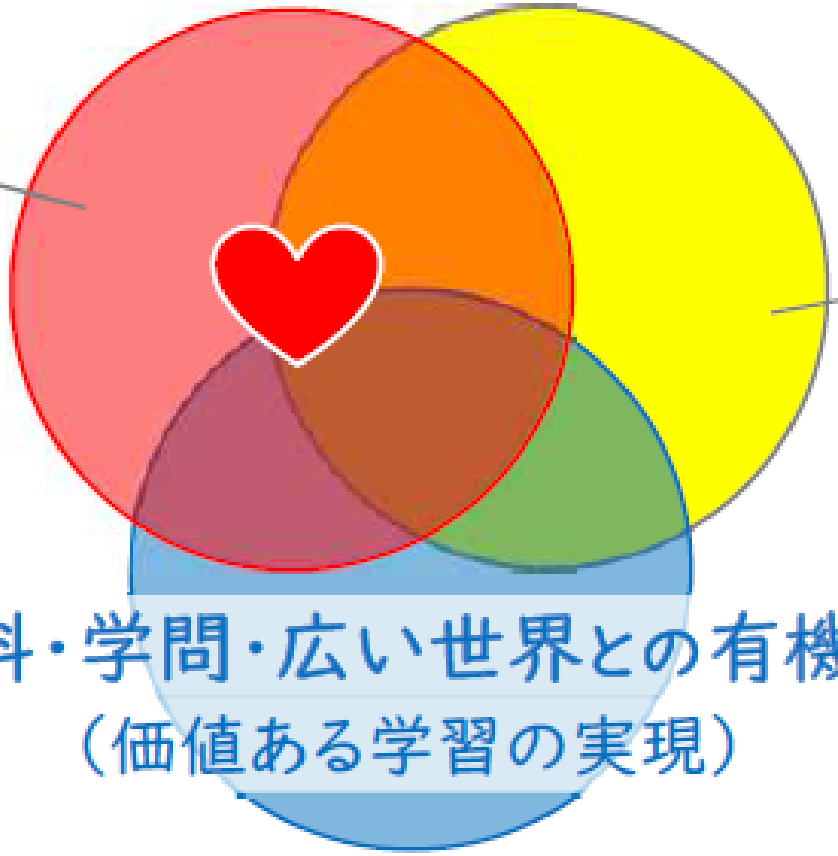
吉賀高校×吉賀町 では、今日の顔ぶれ（＋α）が該当



育成すべき人物像は ？

いま、高校生に必要な学び

マイ・テーマで探究
（自分軸と社会軸の統合）

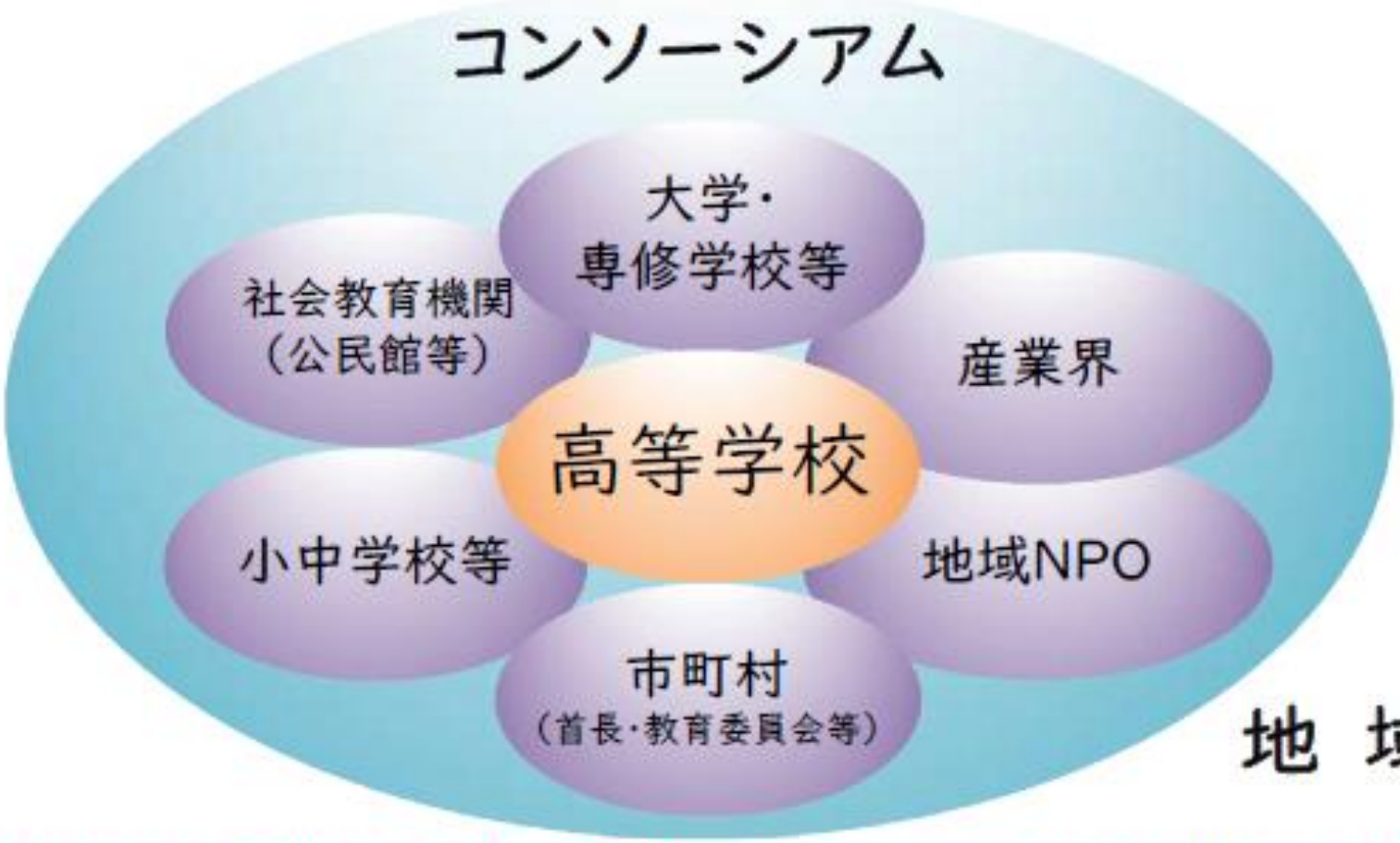


教科・学問・広い世界との有機化
（価値ある学習の実現）

協働性・社会参画性・創造性

自分らしい探究を全ての高校生に届けるには？

各生徒の興味関心と地域の課題とを効果的にマッチングする組織



吉賀高校×吉賀町 では「スクールミッション検討組織」と同じ

コンソーシアム等をどう機能させるか？

ここで必要になるのが**共学共創**という在り方

- 全体像・未来像は断片化された機関・個人には見えない

↓ しかし、

- 多様な立場の者が越境しあい、対話的・協働的に探究（＝共学共創）すると見えるようになる

↓ とともに、

- 各者は自身が果たすべき役割を明確に自覚でき、全体のチーム性や、各者の参画性も高まる（含・高校生）

↓ 具体例は、

- 島根県立吉賀高等学校（古い普通科からの再編を模索）

吉賀高校ならではの“普通科再編”プロセス

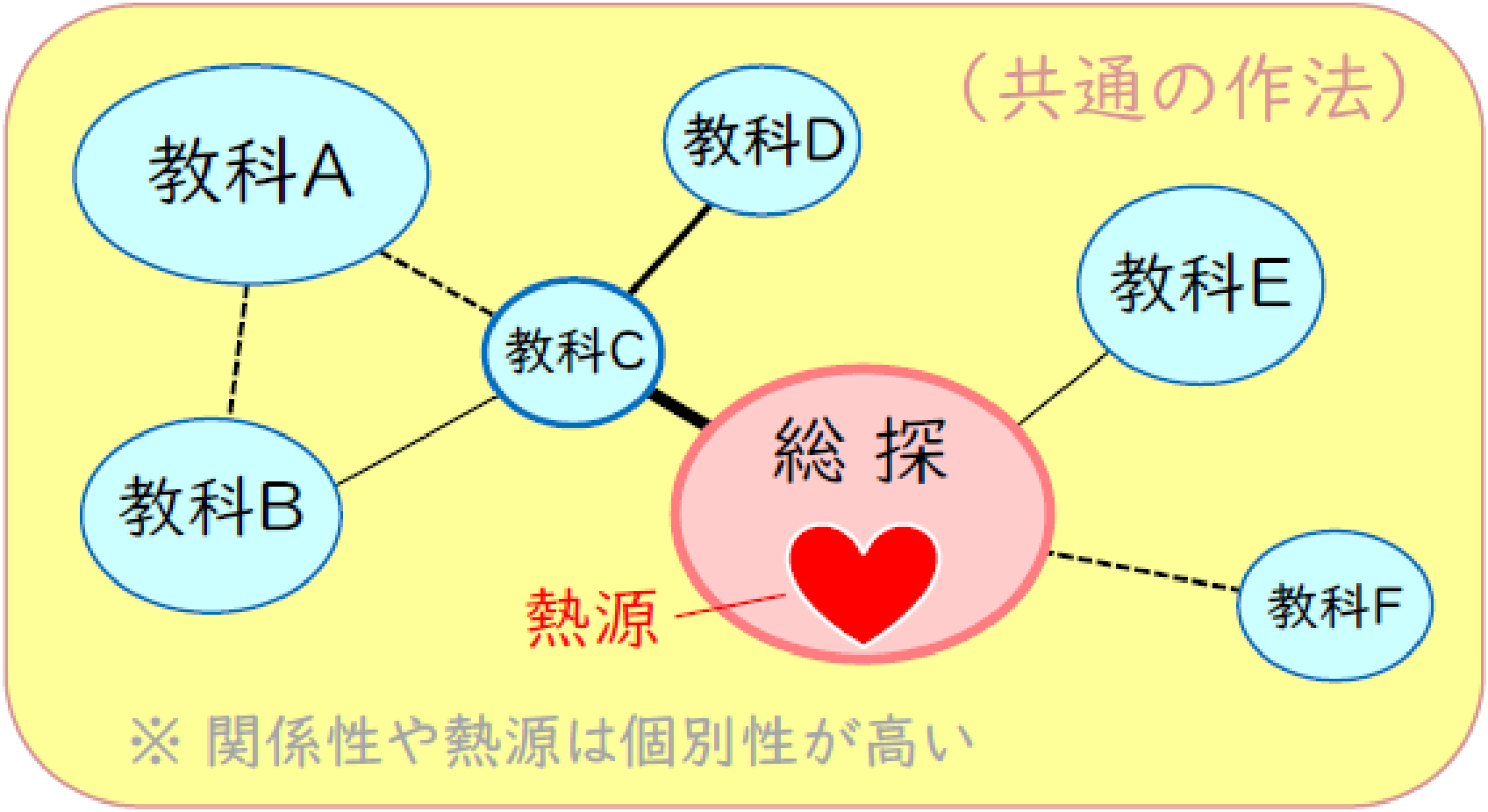
各生徒の「やってみたい！」に
先生方や地域の大人たちが耳を傾け、
どんな人物として卒業していけるよう、
誰が、いつ、どのように関わっていけばよいか、
イメージを共有する

↓

持ち寄れば、どんな教育課程を編成すれば
よいか、自然に浮かび上がってくる

島根・吉賀高校グランドデザイン会議（浦崎はオンライン）

各生徒の興味関心に応じた「学びの形」



各生徒をとりまく大人が共学共創

“今日の進路相談会は楽しかった”

高校改革にむけた共学共創感覚の重要性

多様なセクターによる越境・共学共創に対するリアリティ

低い ↓ ↓ 高い

描けない （部分最適・現在最適）	世界・社会・地域の 全体像や未来像	描ける （全体最適・未来最適）
形式的（意味なし）	スクールミッション スクールポリシー	実質的（意味あり）
低い	コンソーシアムの機能 （チーム性・参画性）	高い
通り慣れた道 （偏差値指向／探究・地域は無駄）	人々が選ぶ道 （高校教育への期待）	未来に通じる道 （地域で協働的に探究）
消耗・枯渇（受動的）	教師・生徒の意欲	向上・充実（主体的）
低い（硬直）	教育課程の柔軟性	高い（柔軟）
低い	普通科改革の実現性	高い

地域づくり＆人づくり（今までvsこれから）

● 今まで

・個人も組織も断片化されたまま（つながれない）
・全体像や未来像を描けない（部分最適・現在最適）
・通り慣れた道を選ぶ（偏差値指向・地域とは疎遠）
・地元で成功できるイメージを持てない（故郷を去る）

● これから

・多様なセクターが越境し、共学共創する
・全体像や未来像を描ける（全体最適・未来最適）
・未来に通じる道を選ぶ（地域と関わりながら学ぶ）
・地元で「自分らしく社会に参加する」イメージを持てる

進路実現（今までvsこれから）

● 今まで

・安定した組織に所属する → 会社人
・競争に勝つために偏差値をアップする
・嫌いなことでも我慢し、努力する（全員一律の学習）
・言われたことだけをやる（他人は関係ない）

● これから（高校在学中・大学・専門学校等・就職先・・）

・多様な人たちとともに未来を創り出す → 社会人
・「自分らしく」に磨きをかける
・夢中になれるテーマを軸に学ぶ（ワクワク感）
・人と関わりあって、新しい価値（喜び）を生み出す

共学共創の輪が広がる年間活動計画

2021年
1～2月

新規連携者や高校生を含む
事務局が関係者と個別に調整

↓

2～3月

達成目標・評価の観点や基準・
各者の役割について、関係者が
対話を通してイメージを共有

リアルorオンライン

↓

“共学共創”

4～12月

イメージに基づいて活動・伴走
変化を観察

↓

2022年
1～2月

事前に共有した観点や基準に
基づいて見学・交流・評価・審査

？

↓

！

共学共創に対する新規連携者のリアリティ

地元定住者を確保できる市にするには・・

「自分は小諸市で成功体験を積めた」

↓ より本質的には

自分は小諸市で「掛け算して価値を創造できた」

↓ そのためには

市内で幼少時から「掛け算する喜び」を積み重ねる

↓ そのためにこそ

- 移住者や来訪者との御縁を大切に
- 「掛け算による価値創造」を意識した教科指導を幼保小中高と丁寧に積み上げる

最後に改めて 今日のキーワード

互いに越境しあって共学共創し
一緒に未来を創り出していく
コミュニティを小諸市に確立を

（各自が立場を越えてつながる 越境・共に学び共に創る 共学共創＝共助）

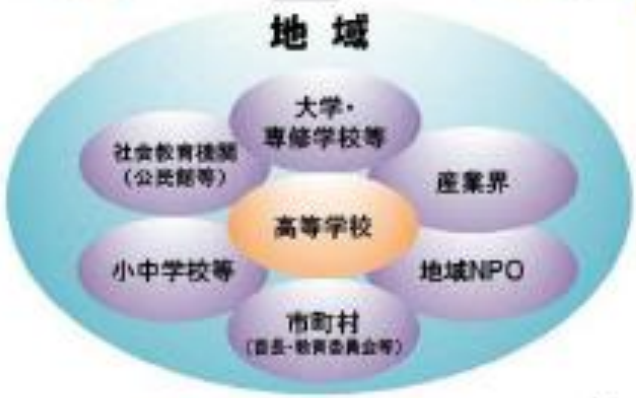
“掛け算による価値創造”

第2回 小諸新校再編実施計画懇話会

「これからの高校教育のあり方」について

令和3年 2月 22日（月） ｵﾝﾗｲﾝ

大正大学 地域創生学部
教授 浦崎 太郎



大正大学